

三重塔

約 24 メートルの高さを誇る法起寺の荘厳な三重塔は、飛鳥時代（593-710）の建築の例であり、国内で最も古い構造である。この仏塔は、708 年の法起寺の建立時から残っている唯一の建物である。塔には聖徳太子が岡本宮を仏教寺院に改築するように山背大兄王に遺言をされたことなどを記した銘文がかつて露盤にあったという。

この塔の三層の屋根は法隆寺の五重塔の一層目と三層目と五層目と同じ大きさになっている。また、法隆寺のレイアウトとは対照的に、三重塔は西側に本堂を備えた伽藍配置になっている。法起寺の僧侶である真政圓忍とその弟子たちは、1678 年に仏塔を修復したが、ごく最近では 1975 年に改装された。